

# 石神井高齢者相談センター 地域ケア個別会議 取組状況と課題

主催・日時・会場	主な参加者・数	テーマ	検討事項	検討結果	把握された課題
練馬ゆめの木支所 平成29年3月21日(火) 14:00~15:30 石神井庁舎会議室	民生委員、地域住民、郵便局長、配食サービス事業所、生協職員、有料老人ホーム職員、高齢者相談センター(本所・支所)計10名	消費者被害の事例から地域の資源、支援を考える	事例の存在する地域の資源を知り、参加された各機関団体の行っている事、特に高齢者の見守りに関する取組について発表頂き、情報共有する。	・見守りネットワーク協定について会議内で周知できた。 ・地域資源の情報交換をしたうえで、事例のような消費者被害を地域で如何に未然に防ぐことができるか、どのような地域協力、地域支援が可能か、についてを参加者で考えた。 ・参加者から先ず身近にできることから実行していく意見も挙がり、地域でのつながりで出来る協力、連携を行なっていくことを確認した。	・消費者被害については、個人の資産等に触れる内容であるため、なかなか地域でも当該者への支援に踏み込みづらく、介入が難しい状況もあることが確認された。 ・地域で話し合いながら、地道に、出来ることから支援を心がけていく必要がある。
高野台支所 平成29年3月29日(水) 14:00~15:30 谷原出張所コミュニティ室	介護支援専門員、言語聴覚士、ボランティアコーディネーター、NPO福祉サロン、高齢者相談センター(本所・支所)計9名	病気とつきあいながら暮らす60代男性の社会参加を考える	社会参加する意欲があるも病気や障害によって実現できず、社会との繋がりが途絶え、孤立し、活動性を失っている方に対して、社会参加できる方法を検討する。	・ボランティアセンターで自分に合う活動を紹介してもらう事はできるが、見守りや支援が必要な高齢者が活躍し、集える場所は、既存の社会資源の中では不足している。 ・「本人にできること」に焦点をあて、理解を深めることで、住民主体の団体が新設するサロンで、本人の強みを活かして活動できる内容を検討して頂けることになった。 ・社会参加を具体化するためのプロセスを、参加者と共有することができた。	・元気な高齢者が集い、活躍できる場所は増えてきているが、身体的な機能が低下した高齢者も、地域の高齢者を支える担い手となって、地域で生きがいや役割をもって暮らせる地域づくりが必要である。
石神井支所 平成29年3月24日(金) 10:00~12:30 石神井庁舎会議室	介護支援専門員、24時間定期巡回事業所、訪問介護事業所、行政書士、練馬区消費生活センター、高齢者相談センター(本所・支所)計12名	判断力が低下したひとり暮らし高齢者が、詐欺等の被害に遭わず自宅で生活を継続していくために、どのような支援ができるか	判断能力が低下したひとり暮らし高齢者が、今後ますます増加することが予測される中で、安心・安全に暮らすための予防的な取り組みや事前の対策を検討する。	・高齢者の消費者被害について、消費生活センターやほっとサポート練馬、石神井警察等現在の被害の状況、その対応について理解を深めることができた。 ・高齢者自身の意識改革と近隣住民との日頃の関係づくりや、行政との協働のしくみづくりが急務であること、その結果として、早期発見、早期対応につながるものが共通認識として確認できた。	・高齢者の消費者被害はますます増加傾向にあり、早期発見、早期対応が重要になってくる。 ・認知症、独居高齢者に限らず、高齢者全般に言えることとして「人的関係をどのように作るか」等の仕組みづくりが求められる。 ・独居高齢者世帯を訪問する社会資源および高齢者への啓発など、行政の取り組みが必要である。
フローラ石神井公園支所 平成29年2月9日(木) 14:00~15:30 石神井庁舎会議室	民生委員、自治会・町会役員、介護支援専門員、NPO福祉サロン、高齢者相談センター(本所・支所)計15名	民生委員との連携を通じて地域のひとり暮らし高齢者への支援について考える	地域とのつながりが薄い高齢者に対して、民生委員からの通報で保護、支援につながった内容について、関係者間で振り返りをし今後の協力をお願いする。	・町会参加者からの意見、訴えをきっかけに、民生委員からも訪問活動や地域ケア個別会議の意義について聞かれ、本所・支所が中心になって丁寧な意見交換をし、結果として会議参加者からの行政への不満や不明な点についてある程度、説明できた。 ・高齢者相談センター本所、支所の役割について理解してもらうことができた。	・地域の関係機関と住民の、顔の見える関係づくりをさらに進めていくことが必要である。 ・高齢者相談センターからも積極的に町会、自治会、民生委員等の集まりに参加するなど、それぞれが顔を合わせていく機会を作ることが重要である。
第二光陽苑支所 平成29年3月6日(月) 14:00~15:30 関保健相談所	民生委員、関保健相談所、石神井保健相談所、慈雲堂病院相談員、石神井警察署、介護支援専門員、高齢者相談センター(本所・支所)計13名	精神疾患を持ち支援介入が困難な高齢者が、適切サービスを受けられるために	本人に対して行った支援経過の情報を共有することで、本人や家族を見守る社会資源の発掘や体制づくりが行えるよう支援方法を検討する。	・今回の個別会議開催をきっかけに、本人夫婦の支援者が情報共有や意見交換を行い、関係づくりのための働きかけや地域住民の対応の仕方について理解を深めることができた。 ・関係者が一同に集まり顔を合わせたことで今後支援を行っていくにあたり支援者同士の関係作りにも繋がったと考えられる。	・精神疾患を持つ方や家族の方が気楽に相談出来るような窓口が地域に少ない。また、病院や施設とは違った、より敷居が低く地域に根付いた相談窓口が不足している。 ・地域の人々への周知などの啓蒙活動なども行うことで、高齢者やその家族を孤立させないような働きかけも必要である。
関町支所 平成29年3月27日(月) 10:00~11:30 関町特別養護老人ホーム	関保健相談所、介護支援専門員、社会福祉協議会、訪問診療所相談員、高齢者相談センター(本所・支所)計8名	介護疲れにより強い鬱がある前期高齢者の居場所づくりについて	鬱の症状はあるが外部との接点を持ちたい気持ちを持ち、前期高齢者が地域で活動できる居場所づくりについて、意見交換を行う。	・本人の家族関係、医師、ケアマネとの関係性等の個別課題や本人の近隣での活動状況、介護サービス事業所や高齢者の居場所が少ないなどの地域特性などが確認できた。 ・外部との接点を望む前期高齢者を支援するボランティア等の支援者や本人の居場所づくりの必要性が確認できた。	・鬱症状のある高齢者に対し、専門職による傾聴などを行う相談窓口や家族を交えた今後の生活に関する検討の場づくりが必要である。 ・立野町地区における高齢者が集える居場所づくりが必要である。

<p>上石神井支所 平成28年12月15日(木) 14:00~15:30 上石神井南地域集会所</p>	<p>民生委員、石神井警察署、上石神井敬老館、訪問介護事業所、通所介護事業所、小規模多機能型居宅介護・グループホーム事業所、高齢者相談センター (本所・支所) 計14名</p>	<p>認知症高齢者が住み慣れた地域で生活し続けるために必要な支援を考える</p>	<p>認知症高齢者が抱える課題について、医療や介護保険サービスの利用状況や本人が希望する社会資源の利用、家族関係等の観点から検討する。</p>	<p>・敬老館利用者への声掛けをスタッフが行った際、何か変化に気づいた場合に、高齢者相談センターへ繋げてもらう体制ができていることが確認できた。 ・近隣の介護サービス事業所や民生委員との繋がり的重要性も再確認することができた。今後は商店街の方などとも連携を図ることで、認知症高齢者を支える地域づくりを行っていくことについて共通認識を持つことができた。</p>	<p>・高齢者の世帯状況は様々であるが、特に、ひとり暮らし高齢者の方が認知症を発症した場合、日常生活が見えにくいため気づきにくい。認知症高齢者を支えるためには、地域の人との繋がりが必要であり、地域の見守り体制を強化するためにも、地域の介護事業所や民生委員、商店街、地域住民との繋がりも今以上に必要になってくる。</p>
---	--	--	---	---	---